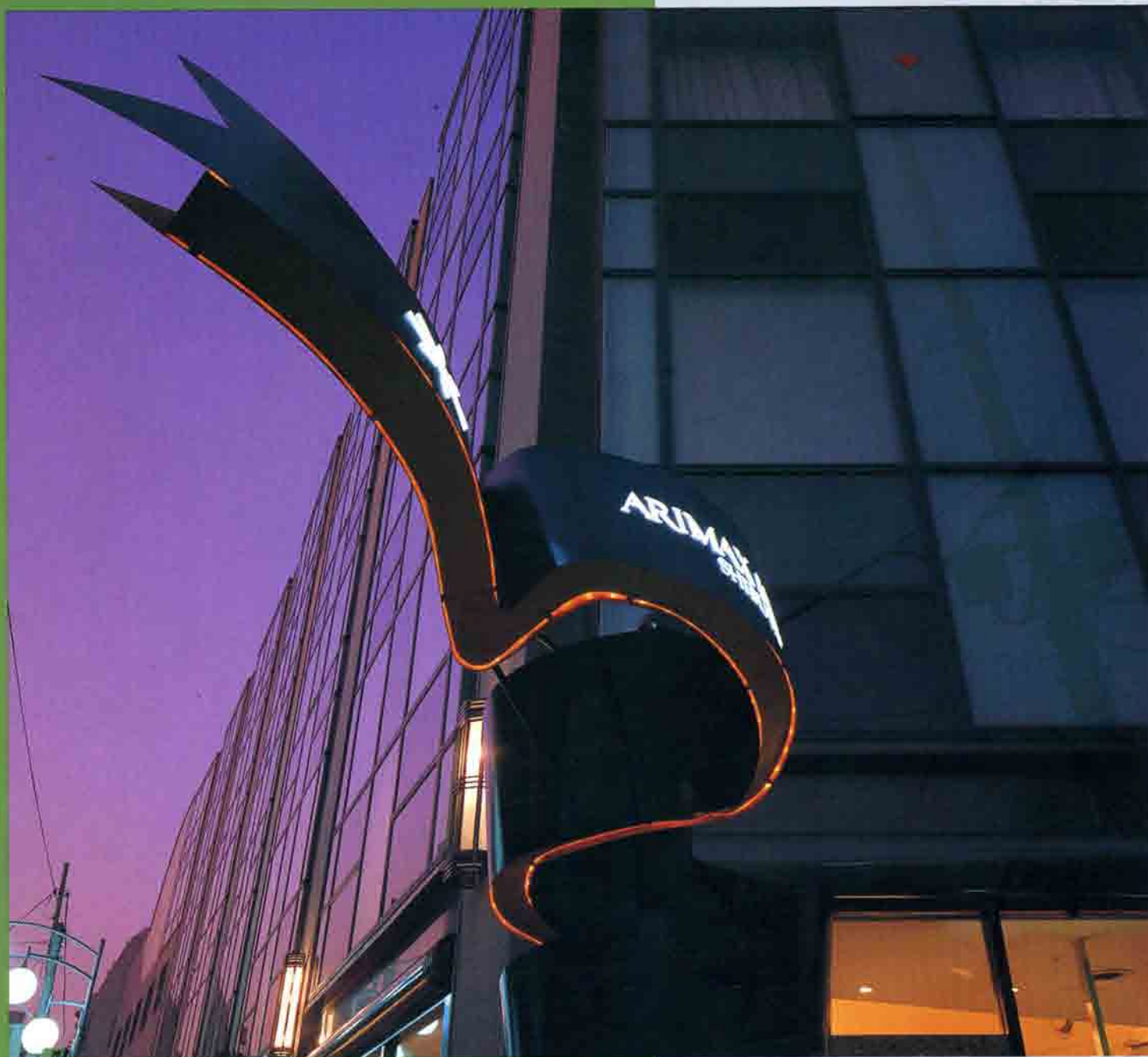


商店建築

SHOTEN KENCHIKU

1



平成6年1月1日発行 毎月1回発行 昭和52年8月12日第3種郵便物認可 第39巻第1号通巻433号

特別企画 ■テーマ性を活かした百貨店&SCのリニューアル
連続特集 ■素材とクラフトマンシップ ■“スタンドグラス”
新作 ■リーガロイヤルホテル成田

JANUARY 1994 VOL.39 NO.1

S
how
room



る。一人旅はデザイナーに必要な、野性の感を奮い立たせる。
今回のデザインでは、限られたコストの中で本当に良い空間を作り出すために素材にこだわった。そこで浮かんできたのが服飾の技術から生まれたブリーツである。このオリジナルな素材を使用し、それを空間化することを考えた。ブリーツ製作では定評のある井上ブリーツに製作を依頼し、工場まで行き、製作過程をチェックした。工場は北陸の福井にあり(実は僕の故郷は福井。偶然である)、中心地から車で1時間ぐらいの田園地帯に忽然と現れる近代的な建物であった。工程としてはまずCADで紙型(雄型と雌型)を作り、その中に素材を入れて手で一つ一つ折り畳む。次にそれを蒸熱セットといってボイラー(クローネンバーグの映画セットみたいだ)の中でスチーム加圧し、一定の時間が経過したら取り出して出来上がりである。光を通すためにブリーツの素材選びも慎重に行い、何種類もの紙や布を取り寄せてサンプルを作り、最終的に不織布で製作した。それを壁に納めるためブリーツアップした不織布に樹脂をかけて硬化させ、現場で取り付けた。この時も工場のスタッフは僕の注文に親身になって協力してくれた。一人旅が“体験”ならば、故郷は“記憶と風景”である。これらが一つになった時に表現の下地が出来上がるのだろう。こうして取り付けられたブリーツは光をまとい、コクーン(蔀)のような柔らかさで空間を包み込んだ。インテリアデザインもローコストであることを迫られている昨今だが、空間の真価はコストの高い、安いだけで判断できるものではない。日常的な素材をしっかりと使用し、空間性を確立させ、さらにオリジナルな素材を開発する。そのような基本姿勢が必要だろう。良い空間を作ることが一番のローコストかも知れない。
(大塚則幸)

撮影/平井広行



ブリーツの織りなす淡彩の空間

ティアラ ショールーム

東京・品川区

設計 大塚ノリユキデザイン事務所 大塚則幸 施工 バックシステム 岡本泰治

Apparel maker Tiara Showroom Kamiosaki Shinagawa-ku Tokyo Designer Noriyuki Otsuka

オリジナル素材の探究

僕は一人旅をする。昨年は春にスペインとモロッコに行った。スペインでは洞穴住居の村に行ってきたし、モロッコではメディナという700年前から何も変わっていない旧市街地を体験してきた。マスメディアの発達により

居ながらにしてさまざまな情報が入手できる今日であっても、やはり“場”の臨場感にはかなわない。それは空気感とか街のノイズであり、その中に一人で見えてくるもの、聞こえてくるものがある。さらに大人になって忘れてしまった“記憶”と風景が蘇ってく



3

「ティアラ ショールーム」データ

所在地：東京都品川区上大崎2丁目7-5 目黒TS
 ビル3階 工事種別：内装のみ 新築 床面積：47㎡
 工期：1993年8月13日～9月6日 施工協力：照明器
 具/ウシオスベックス 家具/パシフィックファニチ
 ャーサービス 木工/福田英二

〈営業内容〉

開設：1993年9月8日 営業時間：午前9時45分～午
 後8時 定休日：日曜・祭日 電話：(03)3443-1788
 経営者：(有)ティアラ

〈主な仕上げ材料〉

床：モルタル下地塗り床材塗布（フェロコン/ABC商

会）木軸組みコンパネ捨て貼りの上カバ材フロー
 リング貼り白染色セラミック塗装半ツヤ出し仕上げ（カ
 バフローリング/東京木材企業）壁：PB112下地セ
 メント系薄塗り材金ゴテ仕上げ（ファインウォールデ
 コ/日丸産業）光壁/透明アクリル13カットティン
 グシート貼りの上不織布ブリーツ加工接着（ブリーツ
 /井上ブリーツ）

1. 室内全体を見る
2. 入り口方向より光壁を見る
3. 光壁のブリーツディテール

